

## 農業機械の輸出入等の状況

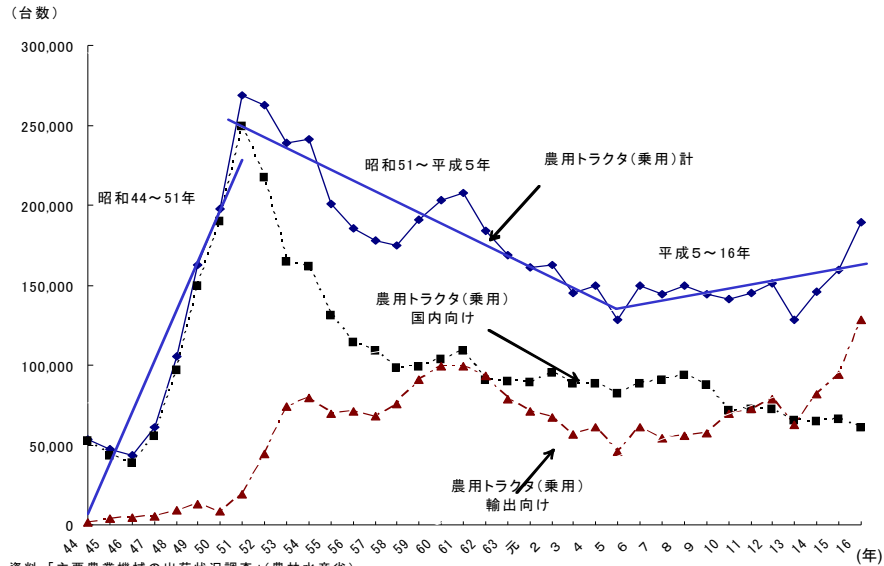
### 目次

1-1 国内出荷状況(トラクタ).....1	2-1 国内出荷状況(刈払機)..... 6
1-2 世界の輸出状況(トラクタ)...2	2-2 世界の輸出状況(刈払機等)... 7
1-3 世界の輸入状況(トラクタ)...3	2-3 世界の輸入状況(刈払機等)... 8
1-4 日本の輸出状況(トラクタ)...4	2-4 日本の輸入状況(刈払機等)... 9
1-5 日本の輸入状況(トラクタ)...5	2-5 日本の輸入状況(刈払機等)...10
	3 日本のコンバインの輸出入状況 ...11

平成19年9月4日  
生産局 生産技術課

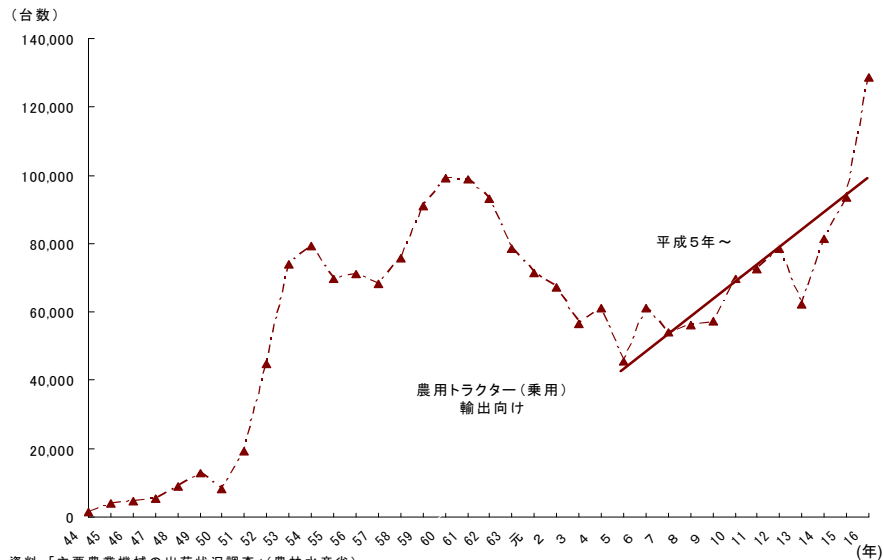
# 1-1 国内出荷状況(トラクタ)

トラクタ（乗用型）の出荷台数の推移



資料:「主要農業機械の出荷状況調査」(農林水産省)  
 注1:国内主要メーカーからの新品の出荷台数であり、中古を含まない。  
 注2:直線は、当該期間における傾向を表す(最小二乗法による近似直線、以下同じ)。

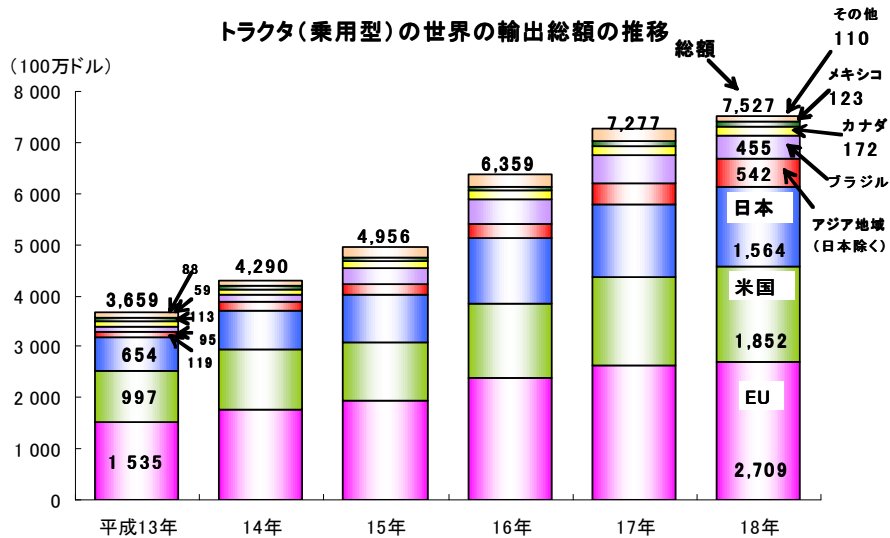
トラクタ（乗用型）の輸出向け出荷台数の推移



資料:「主要農業機械の出荷状況調査」(農林水産省)  
 注:国内主要メーカーからの新品の出荷台数であり、中古を含まない。

- 国内の農業機械化の進展に伴い、国内出荷台数は急速に増加し(昭和44~51年で5倍増)、昭和51年頃をピークに減少に転じた(昭和51~平成5年で半減)。
- 平成5年頃からは、輸出が着実に増加し、国内出荷の減少量を上回ったことから、全体としては増加基調となっている(平成5年~16年で1.5倍増)。
- 特に、平成13年以降、輸出が急激に増加(平成16年は平成13年と比べ2.1倍増)している。

## 1-2 世界の輸出状況(トラクタ)



資料:貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)  
注:関税分類番号8701.90(トラクタ)のもの(以下同じ)。中古を含む。

### ○ 世界全体の動き

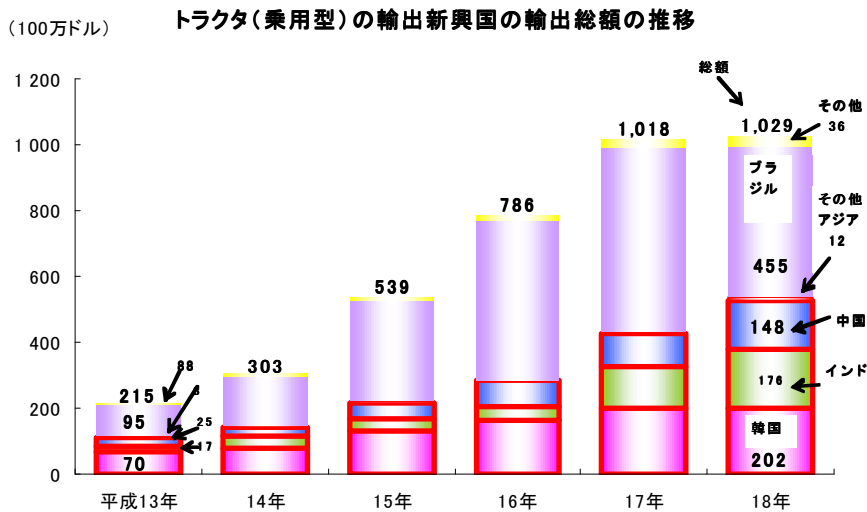
ー輸出総額が急増ー

世界の輸出総額(対象57ヶ国)は、近年急激に増加。平成18年には7,527百万ドルに達し、平成13年の3,659百万ドルから倍増している。

### ○ 輸出の伸びが大きい国々

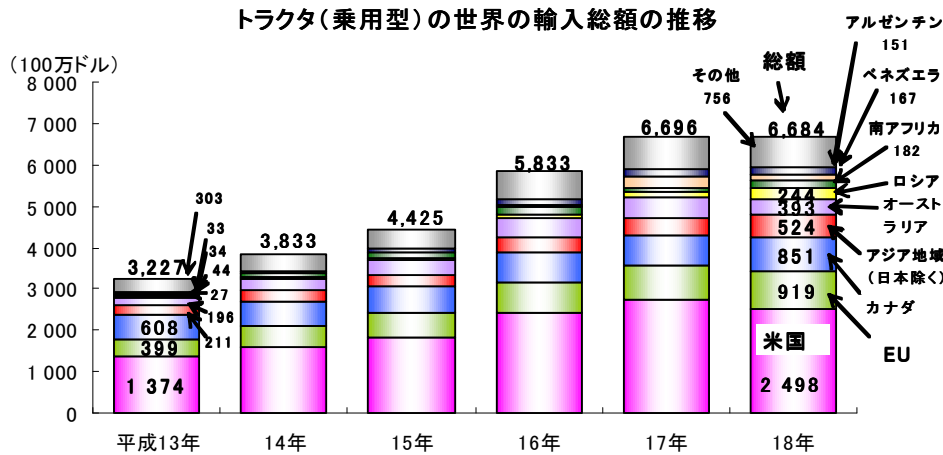
ーインド、中国、ブラジルが著しく増加ー

平成13年と平成18年を比較すると、特に著しい伸びを示しているのが、アジア地域(4.6倍)及びブラジル(4.8倍)であり、アジア地域においては、とりわけ、インド(10.5倍)と中国(5.9倍)が、大きな伸びを示している。

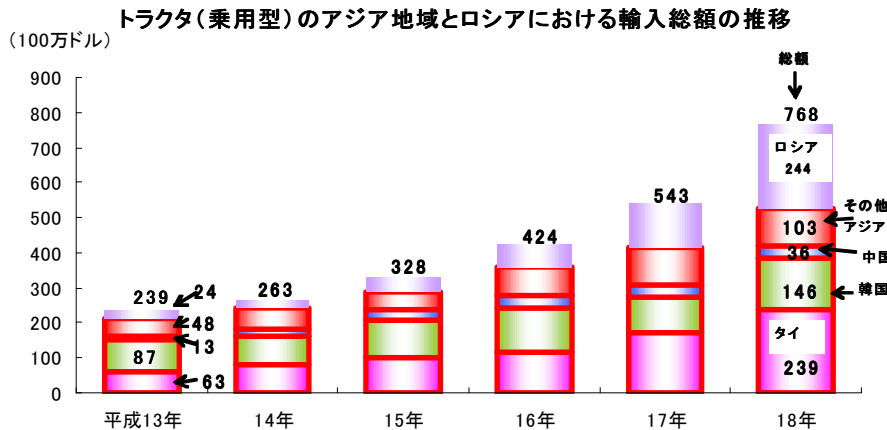


資料:貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)  
注1:対象57ヶ国のうち平成13年からの輸出額が3倍以上の国を集計。  
注2:赤線囲いは日本を除いたアジア地域

# 1-3 世界の輸入状況(トラクタ)



資料: 貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)



資料: 貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)

注1: 対象57ヶ国のうち日本を除いたアジア地域と近年伸びが著しいロシアを集計。

注2: 赤線囲いは日本を除いたアジア地域

## ○ 世界全体の動き

— 輸入総額が急増 —

世界の輸入総額(対象57ヶ国)は、近年急激に増加。平成18年には6,684百万ドルと、平成13年の水準から倍増している。

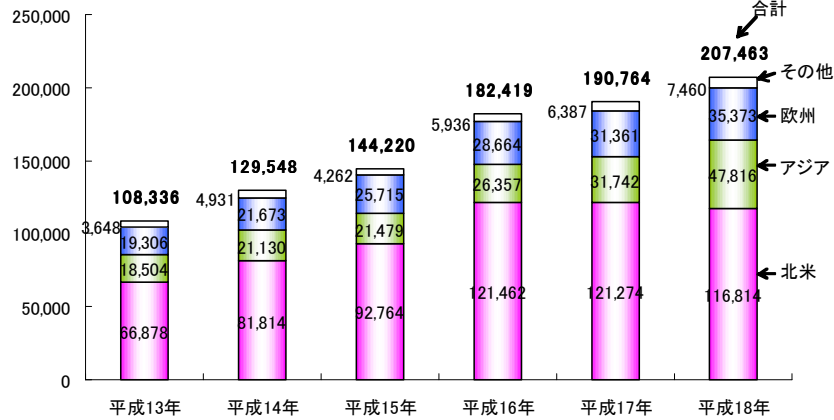
## ○ アジア地域とロシアの動き

— ロシア9.0倍、タイ3.8倍 —

平成13年と直近の平成18年を比較すると、日本を除くアジア地域の伸びは2.5倍と世界全体の平均と比べて伸びがやや大きく、とりわけ、タイでは3.8倍と伸びが大きい。また、ロシアの輸入は9.0倍と、特に顕著な増加が見られる。

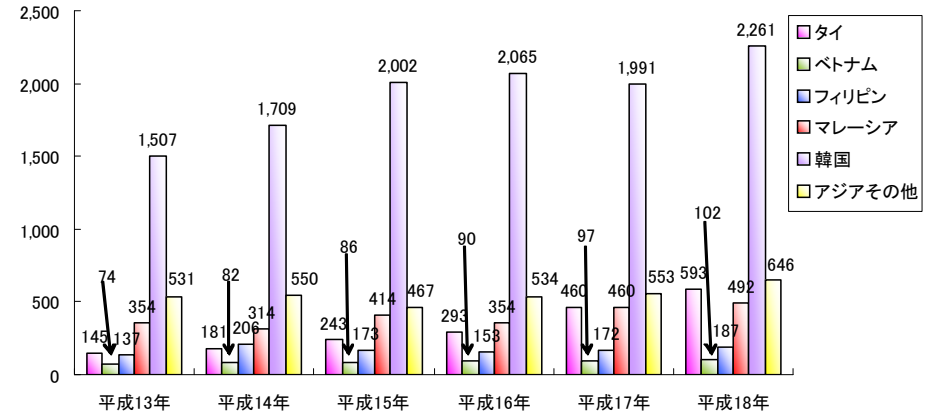
# 1-4 日本の輸出状況(トラクタ)

トラクタ(乗用型)の地域別輸出台数の推移



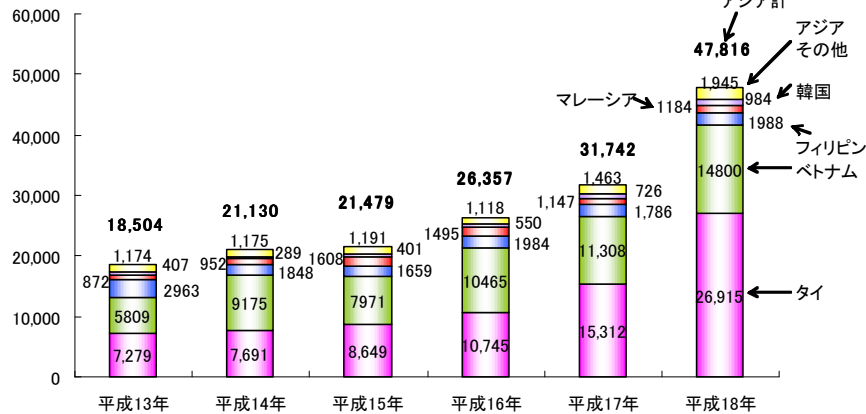
資料:貿易統計(財務省)  
注:関税分類番号8701.90(トラクタ)のもの(以下同じ)。輸出台数には中古が含まれる。

トラクタ(乗用型)の日本からアジア地域への国別輸出単価の推移



資料:貿易統計(財務省)  
注1:単価は、トラクタの輸出額を台数で除して試算したものである。  
注2:中古を含んだ単価である。

トラクタ(乗用型)のアジア地域の国別輸出台数の推移

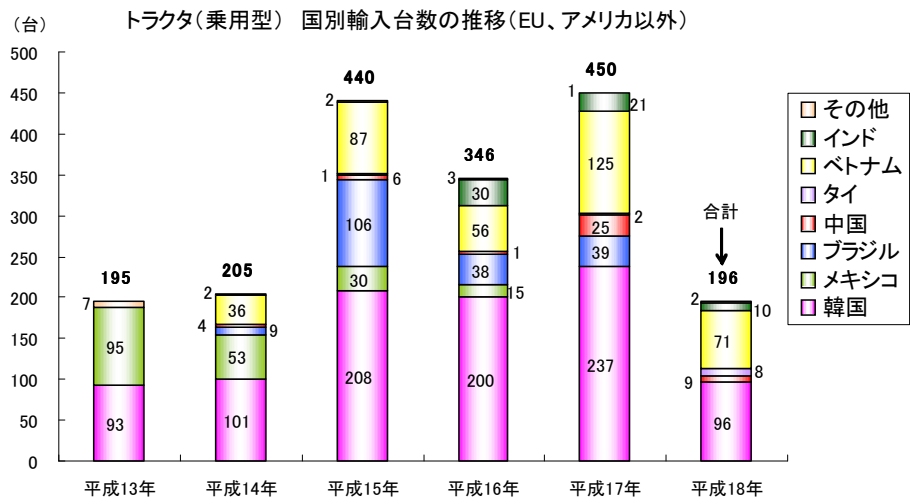
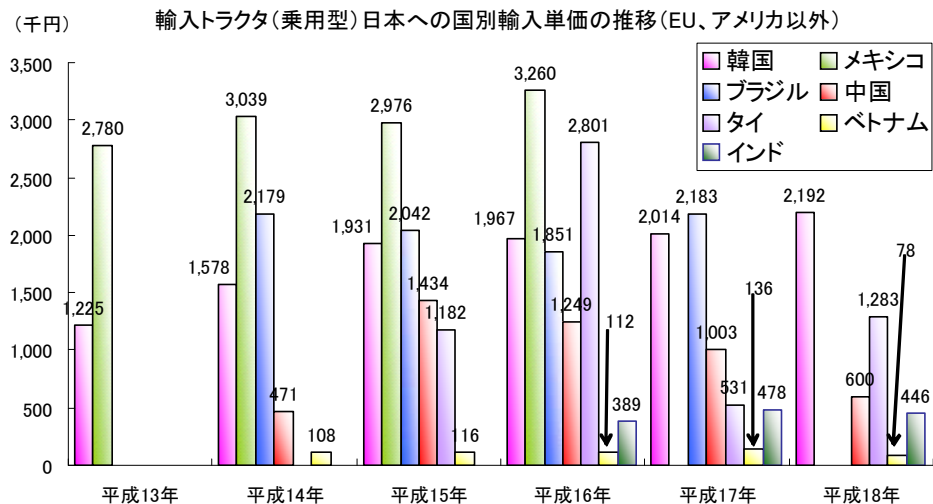
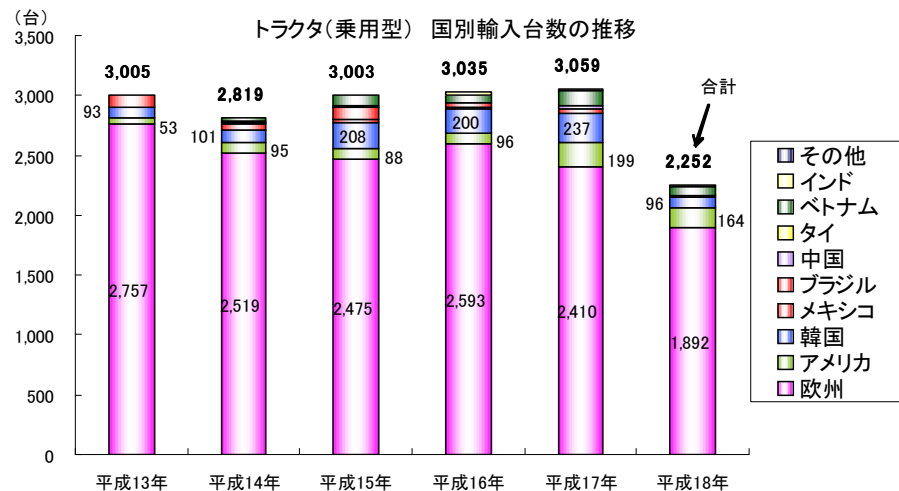


資料:貿易統計(財務省)  
注:輸出台数には中古が含まれる。

○ 平成13年と平成18年を比較すると、日本からの輸出は、近年急速に増加(約1.9倍)しており、特に、アジア地域の伸び(約2.6倍)は大きい。

○ アジア地域の中では、タイ及びベトナムが占める割合が大きい。なお、韓国と他国とでは単価に大きな開きがあることから、韓国以外の国では中古機の輸出台数の割合が相当程度高い可能性がある。

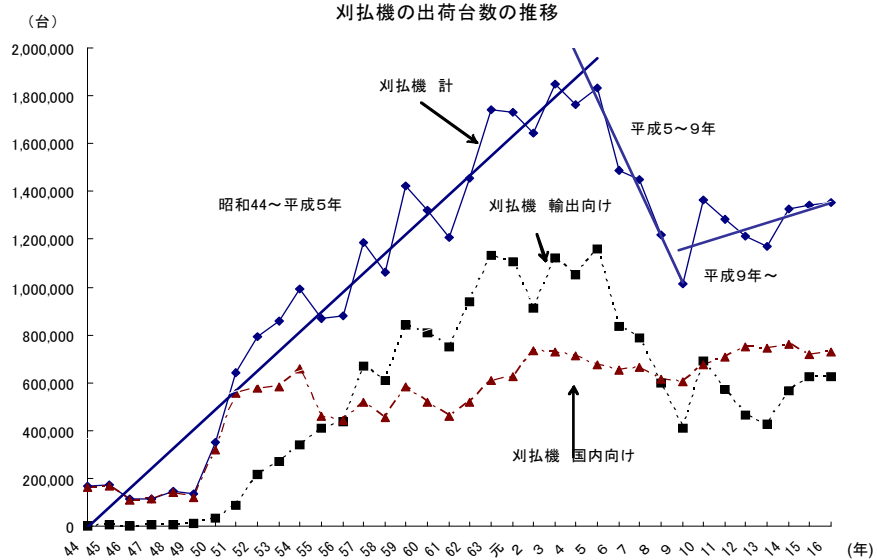
# 1-5 日本の輸入状況(トラクタ)



○ 日本への輸入は近年、ほぼ横ばいとなっている。

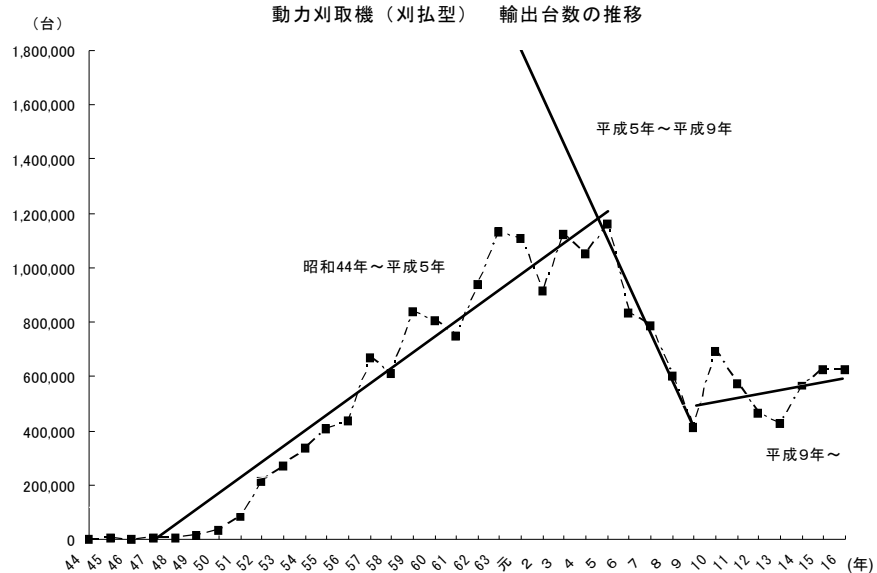
○ 輸入元の大半を占めるEU、米国以外からの輸入台数は年ごとのばらつきが大きいものの、韓国やベトナムが大きな割合を占めると同時に、最近では、ブラジル、中国、インドから一定台数が輸入されている。

# 2-1 国内出荷状況(刈払機)



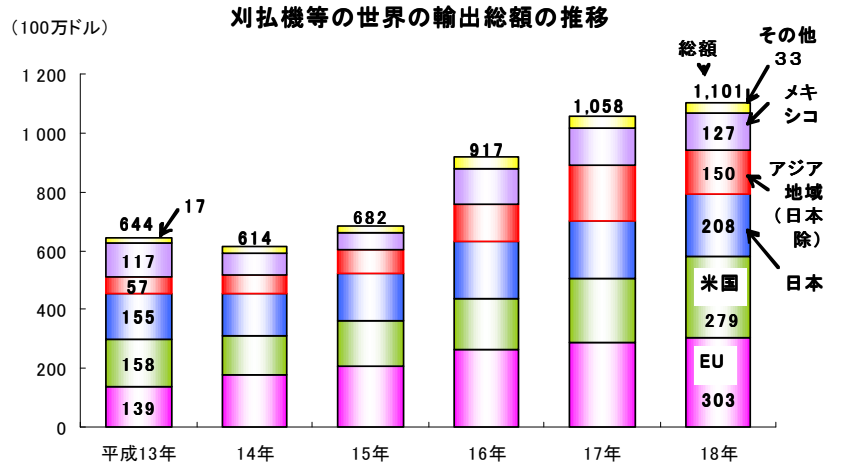
資料:「主要農業機械の出荷状況調査」(農林水産省)  
 注1:国内主要メーカーからの新品の出荷台数であり、中古を含まない。  
 注2:直線は、当該期間における傾向を表す(最小二乗法による近似直線。以下同じ)。

- 刈払機の出荷は、昭和50年頃より国内向け、輸出向けの出荷がともに大きく伸びたため、国内出荷台数は大幅に増加(昭和44～平成5年で11.1倍)した。
- 平成5年頃からは減少に転じたものの、平成9年頃を境にやや持ち直している(平成9～16年で1.3倍)。



資料:「主要農業機械の出荷状況調査」(農林水産省)  
 注:国内主要メーカーからの新品の出荷台数であり、中古を含まない。

## 2-2 世界の輸出状況(刈払機等※)



資料: 貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)

注1: 関税分類番号8467.89(手持ち工具(その他の工具(その他)))のもの(以下同じ)。

※ 以下、刈払機等とは、関税分類番号における、8467.89「手持ち工具(その他の工具(その他のもの))」のグループを指しており、刈払機のほか、道路建設用の土壌突き固め機械なども含まれる。

### ○世界全体の動き

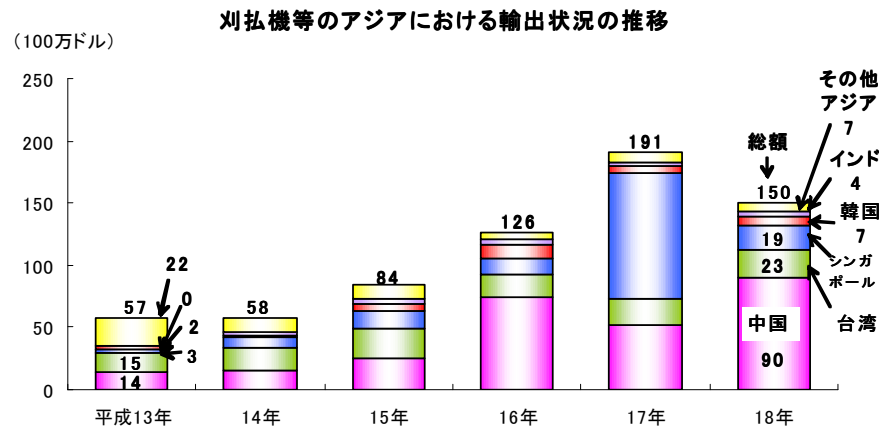
ー輸出総額は増加傾向ー

世界の刈払機等の輸出総額(対象57ヶ国)は、増加傾向。平成13年と平成18年を比較すると、約1.7倍の伸びとなっている。

### ○アジア地域の動き

ー中国の輸出額が急増ー

平成13年と平成18年を比較すると、日本を除いたアジア地域は、約2.6倍と伸びはやや大きく、とりわけ中国が6.4倍と大きな伸びとなっている。



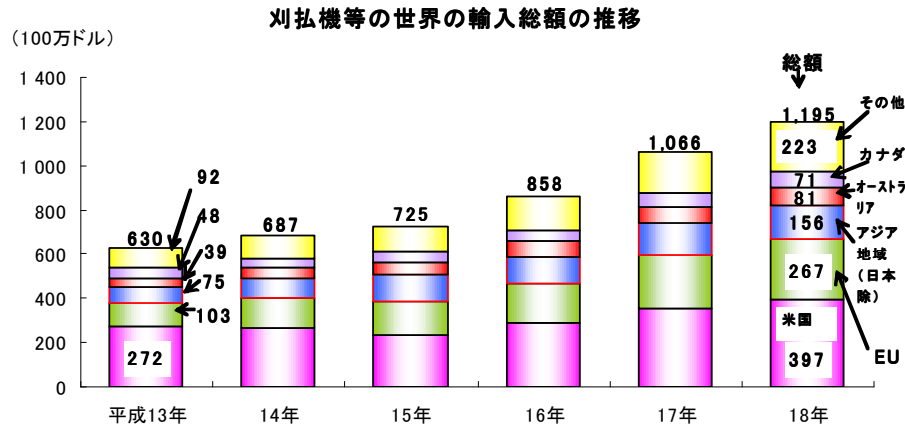
資料: 貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)

注1: 対象57ヶ国のうち日本を除くアジア地域を集計。

注2: 平成17年のシンガポールの輸出額については、大半がインド向けの輸出となっているが、同年のインドにおけるシンガポールからの輸入額と一致しないことから、当該データの取扱いには注意が必要。



## 2-3 世界の輸入状況(刈払機等)



資料:貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)

### ○世界全体の動き

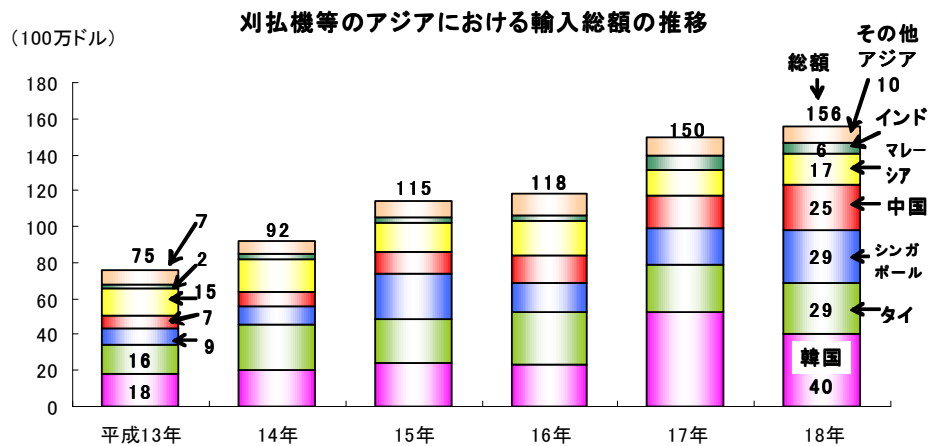
— 輸入総額は増加傾向 —

世界の輸入総額(対象57ヶ国)は、増加傾向。平成13年と平成18年とを比較すると、約1.9倍の伸びとなっている。

### ○アジア地域の動き

— 中国の輸入額が急増 —

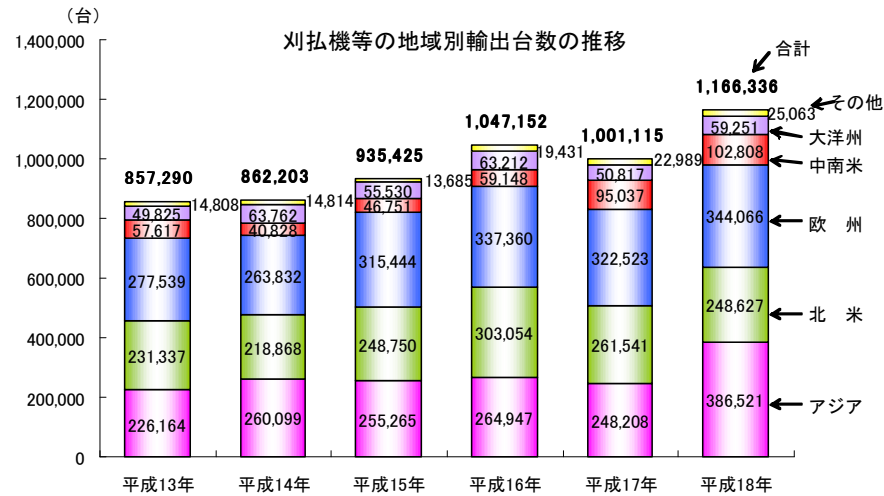
平成13年と平成18年を比較すると、日本を除いたアジア地域は、約2.1倍と伸びはやや大きく、とりわけ中国が3.6倍、シンガポールが3.2倍と大きな伸びとなっている。



資料:貿易統計データベース「Global Trade Atlas」(対象57ヶ国)

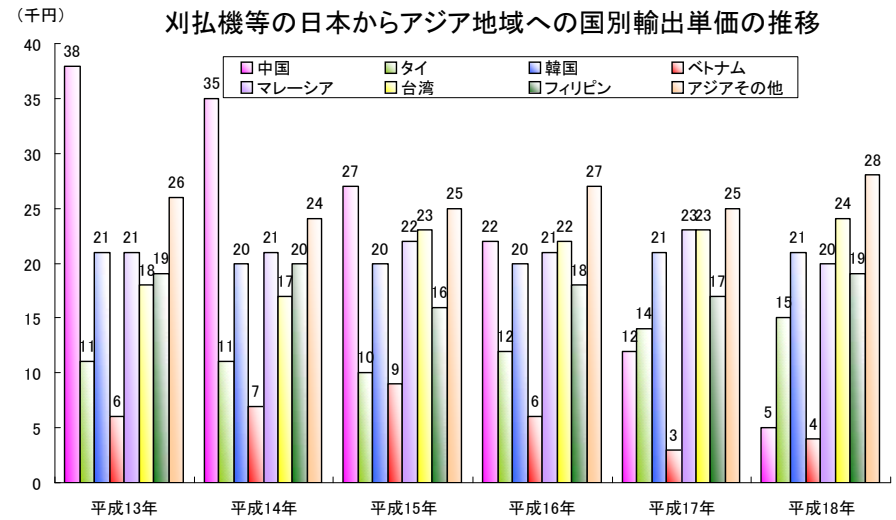
注1:対象57ヶ国のうち日本を除くアジア地域を集計。

## 2-4 日本の輸出状況(刈払機等)



資料:貿易統計(財務省)

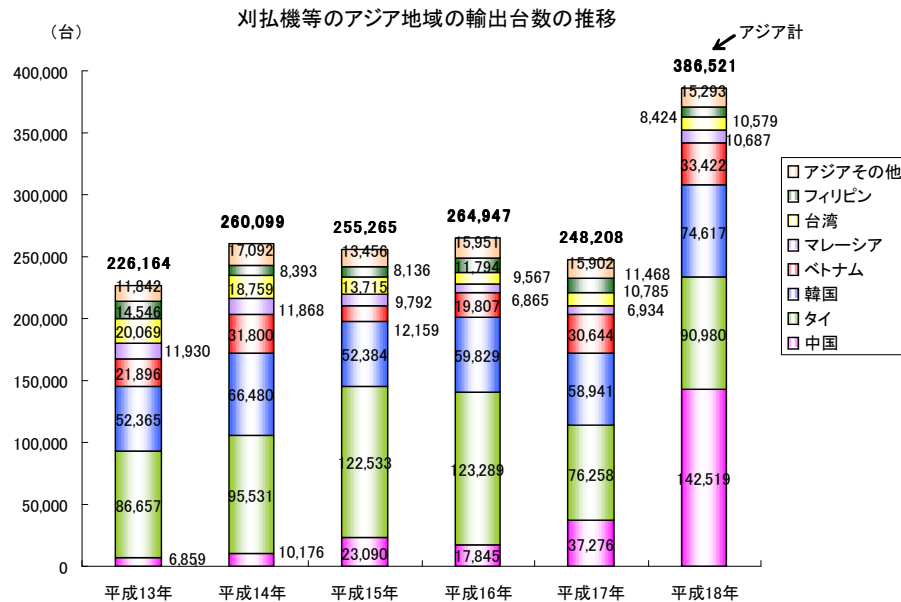
注:関税分類番号8467.89(手持ち工具(その他の工具(その他)))のもの(以下同じ)。中古が含まれる。



資料:貿易統計(財務省)

注1:単価は、刈払機の輸出額を台数で除して試算したものである。

注2:中古を含んだ単価である。

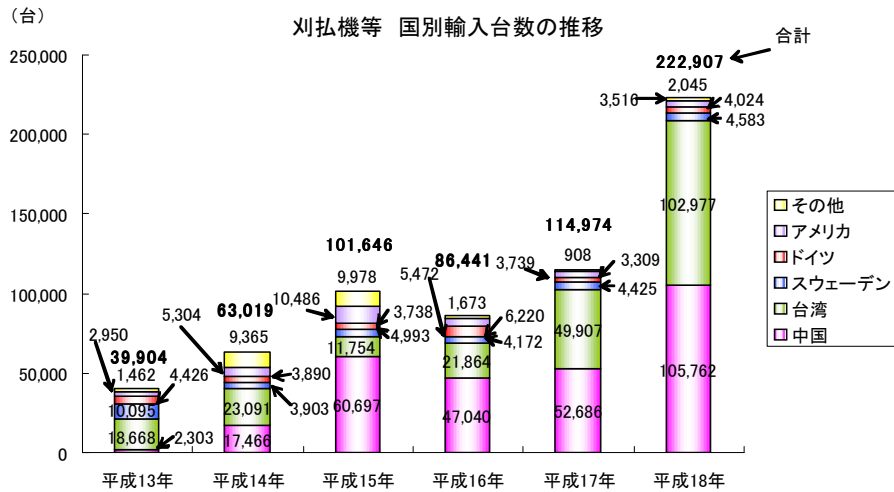


資料:貿易統計(財務省)

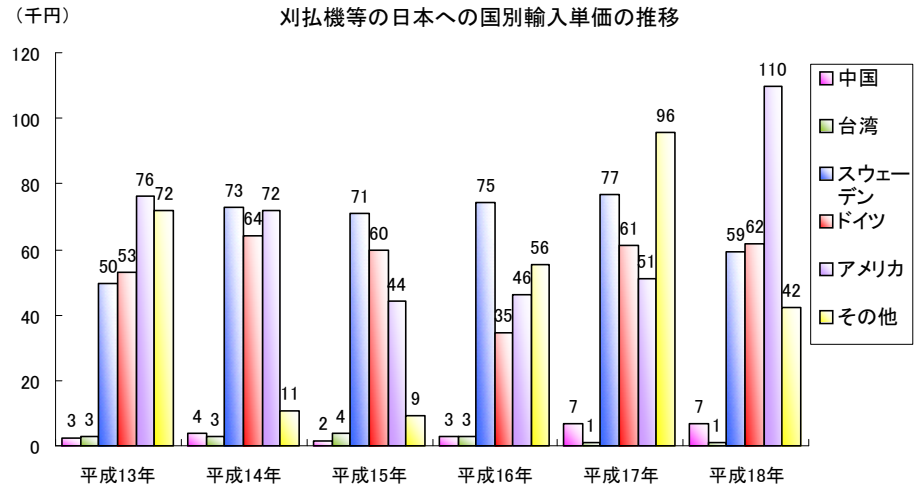
注:輸出台数には中古が含まれる。

- 近年、日本からの輸出は、増加傾向にある。
- 日本からの輸出先は、従来より、アジア地域の中では、タイ及び韓国の占める割合が大きいが、最近では中国への輸出が急増している。
- なお、タイ、ベトナム及び最近の中国向け輸出は、他国向けのものに比べて単価が低く、輸出機のうち中古機の割合が高い可能性がある。

# 2-5 日本の輸入状況(刈払機等)



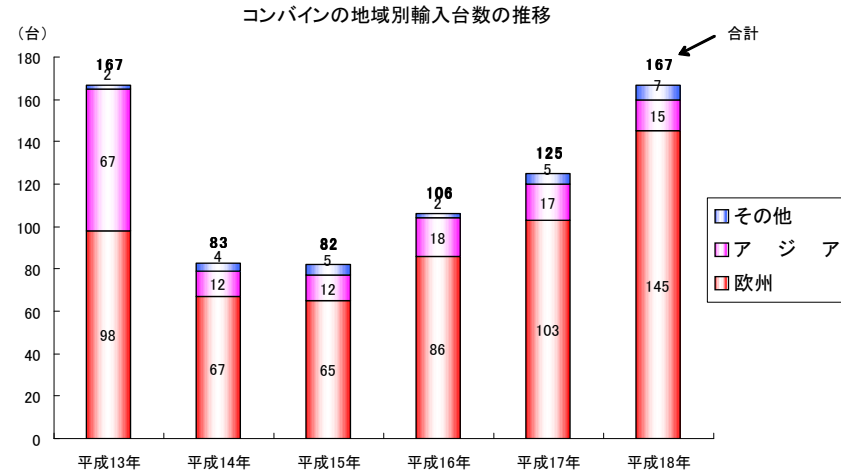
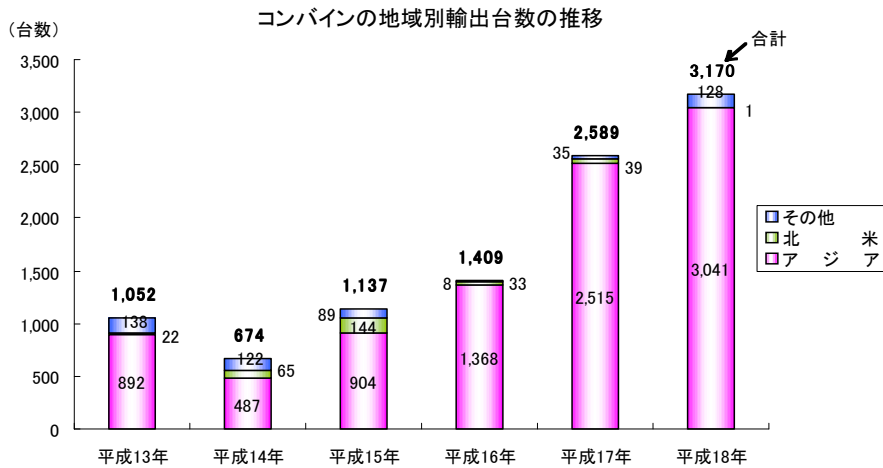
資料: 貿易統計(財務省)  
注: 輸入台数には中古も含まれる。



資料: 貿易統計(財務省)  
注: 単価は、刈払い機の輸入額を台数で除して試算したものである。  
注2: 単価は中古も含まれる数字である。

- 日本への輸入台数は、近年急増している。
- 特に、中国及び台湾の輸入台数は近年大幅に増加しており、平成13年と平成18年を比較すると、それぞれ46倍、5.5倍の伸び率となっている。

# 3 日本のコンバインの輸出入状況

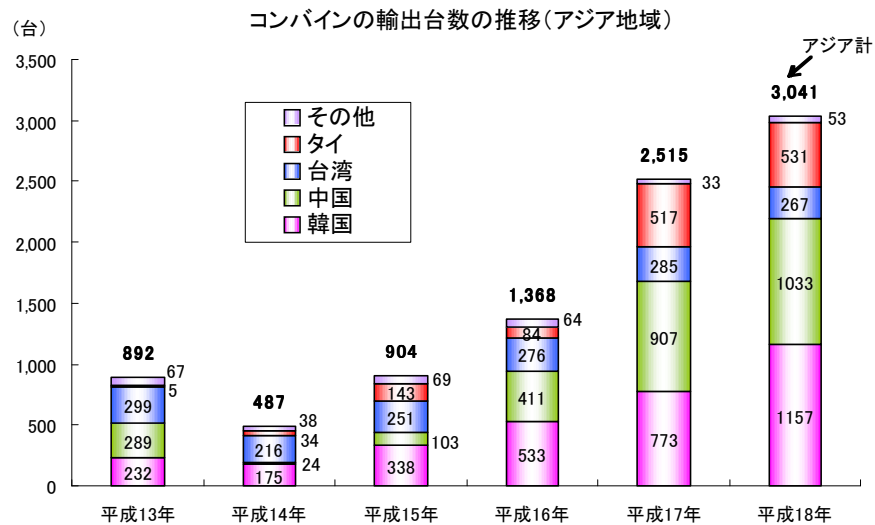


資料：貿易統計（財務省）  
注：関税分類番号8433.51-000（コンバイン）である（以下同）。普通型コンバイン、中古も含まれる。

資料：貿易統計（財務省）  
注：普通型コンバイン、中古も含まれる。

コンバインの韓国、中国からの輸入状況

	韓国			中国		
	台数 (台)	出荷額 (千円)	単価 (千円)	台数 (台)	出荷額 (千円)	単価 (千円)
平成13年	14	29,044	2,075	53	135,942	2,565
平成14年	11	29,801	2,709	1	2,146	2,146
平成15年	7	14,852	2,122	5	15,383	3,077
平成16年	14	33,545	2,396	4	10,287	2,572
平成17年	8	29,207	3,651	8	22,865	2,858
平成18年	6	18,563	3,094	8	15,637	1,955



資料：貿易統計（財務省）  
注：普通型コンバイン、中古も含まれる。

○ 日本からのコンバインの輸出台数は増加傾向にあり、平成13年に比べ平成18年には、約3倍増の約3,000台に達している。輸出先の大半はアジア向けで、韓国、中国、台湾及びタイの比率が大きい。

○ 一方、日本へのコンバインの輸入台数は200台以下と台数は少ないものの増加傾向にある。このうち、アジアではほぼ全数が韓国と中国から輸入されており、合わせて20台弱となっている。